

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 義務教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】 道德教育の充実による規範意識の確立		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	43.8	45.9	48.0	50.0
現況値	39.6% (2016年度調査)	実績値	-	44.7	-	44.7
目標値	50.0%	達成率	※-	97.4%	※-	89.4%
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	※-	3	※-	3

  

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	41.8	44.5	47.3	50.0
現況値	36.2% (2016年度調査)	実績値	-	36.5	-	43.4
目標値	50.0%	達成率	※-	82%	※-	86.8%
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	※-	3	※-	3

### 3 事務事業評価

教育委員会 義務教育課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	道德教育総合支援事業	<p><b>実施目的</b> 本県が目指す、よりよく生きようとする子ども、規範意識の高い他人を思いやることのできる子ども及び豊かな人間関係を構築できる子どもの育成に向け、学校における道德教育の充実を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> 就学前から高等学校段階までの心の教育の充実のため、県内公立幼稚園・認定こども園の道德教育を推進する教諭・保育教諭を対象とした研修会を開催するとともに、中学校道德授業づくり支援のために郷土の偉人に関する教材を作成し、道德教育の充実を図った。今後、道德の教科化に伴う課題の解決を図る実践的な研修や授業の好事例の普及が必要である。</p>	2
平均			2.0

### 4 施策達成レベル

2.8	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

<p>県内公立幼稚園・認定こども園の道德教育を推進する教諭・保育教諭を対象とした研修会の開催や郷土の偉人に関する教材の作成・配付を通じて、道德教育の充実を図り、子どもたちの自立心や主体性、規範意識の向上、郷土愛の醸成を推進した。</p>
--

## 6 今後の施策推進に向けての課題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指した好事例の普及を進め、道徳教育のさらなる充実を図る必要がある。また、学校における郷土教育を引き続き実施し、郷土岡山を愛する人材の育成に努める必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 人権教育・生徒指導課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】暴力行為等への対策の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○小・中・高等学校における暴力行為の発生割合(児童生徒1千人当たり)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	3.8	3.6	3.4	3.2
現況値	5.1件(2015年度)	実績値	5.8	6.0	6.5	5.5
目標値	3.2件以下	達成率	※65.5%	※60.0%	※52.3%	※58.2%
備考	目標値/実績値で計算	達成度	2	2	2	2

3 事務事業評価

教育委員会 人権教育・生徒指導課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業	<p><b>実施目的</b> 社会福祉等の専門的な知識や技術をもったスクールソーシャルワーカー(SSW)を学校教育の場において積極的に活用し、地域の関係機関等との行動連携を活性化させることにより、問題行動や不登校等の課題を抱える児童生徒や保護者等に対する多角的・実効的な支援の充実を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> 各学校へ担当のSSWを配置し、巡回訪問を行うとともに、スーパーバイザーを2名委嘱し、SSWの対応力向上を図ることで、支援ニーズに応じた対応の充実を図ることができた。一方で、SSWとなる人材の安定した確保が課題である。</p>	4

教育委員会 人権教育・生徒指導課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	学級崩壊等早期対応事業	<p><b>実施目的</b> 暴力行為や学級の荒れが見え始めた学校に対して、指導員が関係機関等と連携した指導・支援を行うことで、問題行動の解決及び生徒指導体制の強化を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> 早期から継続的に集中指導員等を派遣して学校の荒れの兆候を把握し、各種専門家や教育事務所、所管教委等と連携して支援を行い、必要に応じて支援員を配置することで、学校の状況の改善につながっている。引き続き、学級の荒れが大きくなる前に、学校からの迅速な支援要請を促すとともに、教育事務所や所管教委等と連携した巡回訪問等により課題の早期発見に努める。</p>	4

教育委員会 人権教育・生徒指導課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	アプリを利用した匿名によるいじめ等の相談・報告システム活用事業	<p><b>実施目的</b> いじめ等の当事者やいじめ等を見かけた生徒が安心して相談できる体制を構築する。</p> <p><b>成果・課題</b> 匿名で相談できることが、生徒の安心につながるとともに、教員が把握していない事案についての情報が提供され、早期に対応ができていた。また、専門相談員による返信・対応により、相談者の心理的負担の軽減が図られるとともに、適切な情報提供により、事態が深刻化しないよう未然防止につながっている。アプリの導入率の向上を一層図る必要がある。</p>	3

平均	3.7
----	-----

#### 4 施策達成レベル

2.3

生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを  
4:1で加味して施策達成レベルを算出

#### 5 施策推進による主な成果

県のいじめ問題対策基本方針に基づく対策の徹底、関係機関と連携した支援体制や教育相談体制の整備、教職員研修の充実、スクールソーシャルワーカーの配置及び研修体制強化、早期からの継続的な学校支援、県警と連携した課題の大きい学校への重点的支援等に取り組むことで、学校の荒れの改善が推進されている。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

問題行動の未然防止とともに、問題行動を初期段階で確実に捉え、早期の解決に向けた取組を徹底できるよう、教職員によるチーム対応や関係機関等との緊密な連携などを徹底し、引き続き、指導員による指導・支援を行うことで、学校における組織的対応の充実を図る。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 生活安全部
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】青少年の健全育成・非行防止対策の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○非行率	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	4.9	4.6	4.3	4.0
現況値	5.7人/年(2015年度)	実績値	3.8	3.4	2.9	2.4
目標値	4.0人以下/年	達成率	※128.9%	※135.3%	※148.3%	※166.7%
備考	少年人口(10~19歳)1千人あたりに占める刑法犯少年の割合	達成度	5	5	5	5

3 事務事業評価

警察本部 警務部	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
		「心と命の教育活動」推進経費	<p><b>実施目的</b> 小・中学校及び高等学校において、犯罪被害者の遺族等が講演を行い、命の大切さを児童・生徒に直接語りかけることによって、規範意識の向上と、社会全体で被害者を支える意識の醸成を図り、子どもたちが犯罪の加害者にも被害者にもならない社会づくりを推進する。</p> <p><b>成果・課題</b> 2020年度中は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が比較的沈静化していた9月から12月の間、小・中学校及び高等学校7校(小学校1、中学校4、高等学校2)において、児童・生徒、教職員、保護者等約900人を対象とした「心と命の教育活動」を7回開催した。今後も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、開催規模・内容等を調整しながら実施していく必要がある。</p>
警察本部 生活安全部	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	子供の非行・犯罪被害防止対策費	<p><b>実施目的</b> 少年の規範意識を高めるとともに、子どもを安全な環境の中で健全に育成することができる地域を社会全体で構築するため、少年の非行防止対策や子どもの安全対策に係る支援等の取組を推進する。</p> <p><b>成果・課題</b> 少年サポートセンターを中心に少年相談への対応、継続指導及び立ち直り支援活動を積極的に実施した。また、警察スクールサポーターによる非行防止教室の開催や、通学路における児童の見守りやあいさつ運動等により、少年の規範意識の向上と地域住民の安心感の醸成を図った。引き続き、立ち直り支援活動等の再非行防止対策や、低年齢段階からの年齢、学職等に応じた非行防止対策を推進していくこととする。</p>	3
警察本部 生活安全部	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	少年非行情勢の更なる改善を図るための事業経費	<p><b>実施目的</b> 「教育県岡山」の復活に向け、2014年度から取り組んでいる学校警察連絡室の取組を継続・発展させ、引き続き、「暴力行為等の問題行動改善」及び「落ち着いて学べる環境の確保」を図る。また、警察官OBによる非行防止教室の開催を促進し、非行防止の基盤となる少年の規範意識向上を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> 2020年中の県下の非行率は2.4人で過去最少となり、刑法犯少年についても463人で戦後最少を更新し、改善傾向を維持している。引き続き、非行情勢のさらなる改善に向け、これまでの学校警察連絡室による取組の成果を警察署や学校に波及させる取組を推進するとともに、非行防止教室専門員のさらなる活用を推進する。</p>	3
平均			2.7

#### 4 施策達成レベル

4.5

生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを  
4:1で加味して施策達成レベルを算出

#### 5 施策推進による主な成果

学校警察連絡室の活動をはじめとする各種対策を推進した結果、2020年中に検挙・補導した刑法犯少年は463人と、前年に比べ92人(16.6%)減少した。また、非行率は2.4人と、前年に比べ0.5人(17.2%)減少し、8年連続で過去最少を更新するなど、非行情勢は着実に改善している。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

県下の非行情勢は改善傾向にあるものの、非行率はいまだ全国ワースト上位であるなど、依然として厳しい状況にある。本県の課題である再犯者率の高さや非行の低年齢化を改善するため、教育機関や少年警察ボランティア、保護者等と連携しながら、立ち直り支援活動等の再非行防止対策や、低年齢段階からの年齢、学職等に応じた非行防止対策を推進していく必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 人権教育・生徒指導課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】スマホ・ネット対策の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○スマートフォン等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合(小学生)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	5.0	5.0	5.0	5.0
現況値	13.9%(2015年度)	実績値	17.3	18.0	21.2	23.4
目標値	5.0%	達成率	※28.9%	※27.8%	※23.6%	※21.4%
備考	目標値/実績値で計算	達成度	1	1	※1	1

指標名	○スマートフォン等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合(中学生)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	10.0	10.0	10.0	10.0
現況値	23.9%(2015年度)	実績値	25.1	27.9	28.6	27.1
目標値	10.0%	達成率	※39.8%	※35.8%	※35.0%	※36.9%
備考	目標値/実績値で計算	達成度	1	1	※1	1

指標名	○スマートフォン等を平日3時間以上利用する児童生徒の割合(高校生)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	15.0	15.0	15.0	15.0
現況値	33.8%(2015年度)	実績値	36.3	41.3	41.0	45.4
目標値	15.0%	達成率	※41.3%	※36.4%	※36.6%	※33.0%
備考	目標値/実績値で計算	達成度	1	1	※1	1

3 事務事業評価

県民生活部 男女共同参画青少年課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	青少年のスマホ・ネット利用のルールづくり促進事業	<b>実施目的</b> 青少年へのスマホ・ネットの急速な普及により、長時間利用による依存、不適切な使用に起因する犯罪被害、ネット上のいじめなど様々な問題が発生している。これらのスマホ・ネット問題の解決を図るため、青少年・保護者のインターネットリテラシー向上に向けた取組を推進する。	<b>成果・課題</b> 青少年が使用するスマートフォン等に係る店頭契約時のフィルタリング利用率は上昇傾向にあり、フィルタリング機能への理解が深まっていると認められる。一方、フィルタリング等を利用しない理由として、「子どもには、適正な利用方法を理解させているので、フィルタリングは不要」「必要性を感じるが、設定等の操作が不安」という保護者の意見もあり、引き続き普及・啓発を進める必要がある。	

教育委員会 人権教育・生徒指導課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	生徒指導上の課題解決に向けた効果的な対応策普及促進事業	<b>実施目的</b> スマホ等の使用時間など利用に関する適切なルールづくりやフィルタリング機能等の活用について、児童生徒の主体的な取組を促進するなど、ネット上のいじめや依存症等から子どもを守る取組の強化を図る。	<b>成果・課題</b> 新型コロナウイルス感染症の影響により、OKAYAMAスマホサミット及び生徒指導推進大会は実施できなかったが、津山教育事務所管内の中学校を対象に県北スマホサミットを開催し、スマホ等の適正な利用について、生徒の主体的な取組の促進を図るとともに、フィルタリング機能等の活用についてのチラシを作成し、保護者へ周知を図った。引き続き、スマホの適正利用について、児童生徒の主体的な取組の促進及び保護者への啓発を進める。	

平均	4.0
----	-----

#### 4 施策達成レベル

1.6	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

スマホ・ネット問題総合対策の推進により、スマホやネットの適切な利用について、児童生徒の主体的な活動や家庭でのルールづくりが促進された。一方で、小中学生のスマホ等の所持率の増加に伴い、スマホ等の長時間利用の割合が増加傾向にあり、改善に向けた取組の充実を図る。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

子どもを取り巻くスマホ・ネット問題の解決に向け、児童生徒への情報モラル教育のさらなる充実を図るとともに、スマホやネットの適切な利用について、児童生徒の主体的な取組の促進や、保護者に対する啓発や研修の充実による家庭でのルールづくりの促進を一層図る。また、GIGAスクールの推進など、児童生徒の情報端末の利用促進を図り、引き続き利用時間や利用内容を把握しながら、長時間利用の課題への取組を進めていく必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 義務教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】より良い社会づくりに参画する人材の育成		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	45.8	47.2	48.6	50.0
現況値	42.9% (2016年度調査)	実績値	39.6	41.1	-	30.7
目標値	50.0%	達成率	86.5%	87.1%	※-	61.4%
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	3	3	※-	2

  

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	22.5	23.3	24.2	25.0
現況値	20.7% (2016年度調査)	実績値	20.2	22.1	-	18.0
目標値	25.0%	達成率	89.8%	94.8%	※-	72%
備考	全国学力・学習状況調査結果	達成度	3	3	※-	2

### 3 事務事業評価

教育委員会 義務教育課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやま創生小中学校パワーアップ事業	<p><b>実施目的</b> 小学校段階から地域への愛着や地元貢献意識を育て、将来のおかやま創生を担う人材の育成を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> 小・中学校のこれまでの学習活動を「小中学校9年間で育成すべき力」と「ふるさと学習」の視点から整理することによって、目的意識を明確にして学習を実施することができた。今後は、児童生徒が達成感を感じられるよう、学習内容を発表する機会や発信に対してフィードバックを得る機会が必要である。</p>	3
平均			3.0

### 4 施策達成レベル

2.2	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

<p>小・中学校が子どもの育成像を共有した上で、地域と連携して地域課題解決や地域の特色を生かした魅力づくり等を行う取組を通して、子どもたちの住んでいる地域への愛着や地元貢献意識を育んだ。</p>
---

## 6 今後の施策推進に向けての課題

子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち、地域課題を自ら解決しようという当事者意識や実践力を身につけられるよう、発達段階に応じて、地域と連携した教育活動を推進し、子どもたちが地域で活躍する場を創出する必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 保健体育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【重点】健やかな体の育成		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○1週間の総運動時間数が60分未満の児童生徒の割合(男子/小学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	5.5	5.4	5.3	5.2
現況値	5.8%(2015年度)	実績値	5.3	7.1	7.2	-
目標値	5.2%	達成率	※103.8%	※76.1%	※73.6%	※-
備考	小学校5年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	2	2	※-

指標名	○1週間の総運動時間数が60分未満の児童生徒の割合(男子/中学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	6.4	6.2	6.0	5.8
現況値	7.0%(2015年度)	実績値	6.4	6.3	7.0	-
目標値	5.8%	達成率	100%	※98.4%	※85.7%	※-
備考	中学校2年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	3	3	※-

指標名	○1週間の総運動時間数が60分未満の児童生徒の割合(女子/小学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	11.6	11.4	11.2	11.0
現況値	12.1%(2015年度)	実績値	9.7	12.5	11.6	-
目標値	11.0%	達成率	※119.6%	※91.2%	※96.6%	※-
備考	小学校5年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	3	3	※-

指標名	○1週間の総運動時間数が60分未満の児童生徒の割合(女子/中学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	22.1	21.8	21.5	21.2
現況値	21.6%(2015年度)	実績値	18.7	20.6	19.3	-
目標値	21.2%	達成率	※118.2%	※105.8%	※111.4%	※-
備考	中学校2年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	達成度	4	4	4	※-

3 事務事業評価

教育委員会 保健体育課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	食育スタンダード普及推進	<b>実施目的</b> これまでのモデル研究の成果として得られた食育スタンダードに基づく指導案を実践することにより、学校教育活動全体を通じた組織的・計画的な食育を推進する。	<b>成果・課題</b> 栄養教諭等研修講座において、食育スタンダード普及推進事業で作成した指導案等の活用事例を紹介し、優良実践の拡大を図った。	3

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 保健体育課	みんなでチャレンジ ランキング	実施目的 体力を計画的に向上させていくために、体育授業の一層の充実を図り、児童生徒一人ひとりが課題をもって主体的に体力づくりに取り組むことができるようにするとともに、教科外での活動機会の充実など学校の教育活動全体を通じた取組を推進する。	2
		成果・課題 2019年度にホームページをリニューアルし、参加人数はリニューアル前より増えている。新型コロナウイルス感染症の影響から実施困難な種目があったことから、参加校、参加チーム、人数について減少したが、引き続き子どもたちの運動の習慣化につながるよう本事業の取組を進める。	
平均			2.5

#### 4 施策達成レベル

2.5	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

子どもの体力を向上させるために取り組んでいる「みんなでチャレンジランキング」への参加校割合は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少しているものの、「みんなでチャレンジランキング」のホームページを2019年度にリニューアルして利用者の利便性の向上を図ったところ、リニューアル前より参加延べ人数は増加している。また、県学校栄養士会と連携して作成した指導案等の活用事例を紹介し優良実践の拡大を図り、食育スタンダードの普及促進の取組が進んでいる。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について傾向の分析、効果的な対策の検討を進め、「みんなでチャレンジランキング」等の体力向上への取組を普及促進するとともに、県学校栄養士会と連携した食育の推進により、今後とも「体」「食」の両面から健やかな体の育成を目指していく必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 人権教育・生徒指導課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【推進】人権教育の推進		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

### 3 事務事業評価

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 人権教育・ 生徒指導課	調査事業・指導資料整備事業	実施目的 市町村及び学校における人権教育推進の取組状況を把握するとともに、様々な人権教育課題に応じて活用できる指導資料を整備、作成し、人権教育を総合的に推進する。	4
		成果・課題 市町村や学校の人権教育推進の取組状況を毎年把握し、その調査結果に基づき、様々な指導資料の作成や人権課題に関する視聴覚教材を整備するとともに、各種研修会において、効果的な活用について紹介することで、校内研修の推進を図ることができた。	

平均	4.0
----	-----

### 4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを 4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

学校教育においては、各種教職員研修会及び市町村人権教育担当者会の機会や、人権学習充実拠点校事業等の実施を通じて、「第3次岡山県人権教育推進プラン」が示す人権教育の基本的な考え方や各人権課題に対する取組について周知を図ったことにより、人権教育の効果的な推進や、様々な人権をめぐる課題等に対する教職員等の理解と認識も深まっている。さらに、日々の指導に生かせるように人権教育の指導内容・方法等について指導資料を作成し、各校に配付した。社会教育においては、住民が、様々な人権問題についての理解と認識を深められるよう各種情報の提供や連絡調整、指導資料の作成を行った。また、地域における指導者の養成等により、市町村の取組を支援した。

### 6 今後の施策推進に向けての課題

学校教育については、人権感覚の育成を図る取組は推進されているが、人権課題を明確にした人権学習の取組が減少してきている。人権学習の取組を通して、教職員も児童生徒も人権意識が高まるように、指導内容・方法の充実・改善を図る必要がある。社会教育においても、住民が日常生活の中に生かせる人権感覚と実践的な態度を身に付けることを目指し、参加体験型の研修を実施する等の取組をさらに進める必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 男女共同参画青少年課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	徳育推進プログラム		
施策名	【推進】困難を有する子ども・若者への支援		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

### 3 事務事業評価

県民生活部 男女共同参画青少年課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやま子ども・若者育成支援事業	<p><b>実施目的</b></p> <p>ニート、ひきこもり、不登校など、複雑・深刻な問題を抱える子ども・若者に対する支援に向け、身近な場で相談等を受けられる体制を整備する。</p> <p><b>成果・課題</b></p> <p>子ども・若者支援地域協議会未設置の市町村に対して、全国の先進事例に係る研修会や設置済市町との情報交換会の開催を通じて、協議会設置促進に向けた意識の醸成を図った。担当課の調整が進まない、職員不足などの理由から、設置の検討段階にない市町村が多い中、様々な機関が連携して支援することの重要性やそのための協議会の有用性を認識する市町村もいくつか出てきており、そのような市町村を重点的に支援する必要がある。</p>	2

平均	2.0
----	-----

### 4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

民間支援機関等と連携し、協議会設置に向けて検討を重ねている岡山市に対し、体制整備についての助言や個々のケースについての情報提供・支援を行った結果、設置に向けた準備が進んだ。

### 6 今後の施策推進に向けての課題

様々な困難を有する子ども・若者の支援の充実には、身近な市町村における支援ネットワークである「子ども・若者支援地域協議会」を設置し、重層的かつ継続的な支援を行うことが有効である。市町村と連携したケース会議の開催や設置済市町と未設置市町村との情報交換会の開催、関心をもっている市町村への訪問などにより、各市町村に対する情報提供や助言を継続的に行っていく必要がある。